

Sophia

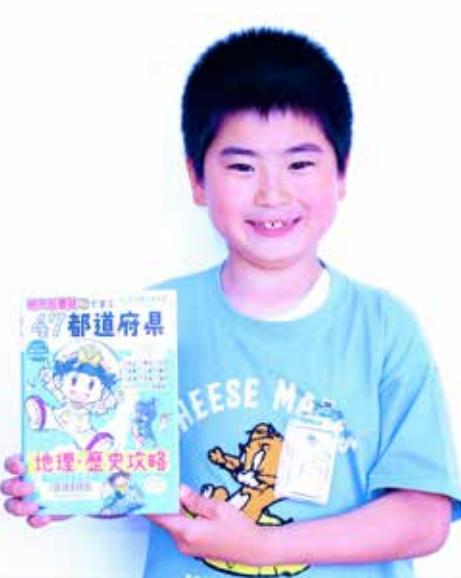
ソフィアだより

2023年
夏号
No. 2



内郷小学校の
子どもたちに
インタビュー！

ワクワク、ドキドキよ届け！移動図書館！



わたしの1冊
図書館職員おすすめ！
キャンプを楽しみ
つくす！



温故知新
今はなき幻の水族館



移動図書館

移動図書館 in 内郷 小学校



ソフィアセンターでは、市内19小学校を巡回する移動図書館事業を展開しており、小学生向けに絵本や児童書、紙芝居を中心に約800冊の本を図書館車で学校へ運び、貸出・返却を行っています。

移動図書館の本は、気軽に楽しめる内容の本を選書し、本箱に入れて自由に選べるようにしておらず、子どもたちに大人気です。

今回取材させていただいた内郷小学校は、毎回一人当たりの貸出冊数が多く、たくさんの子どもたちが移動図書館を通じて本と触れ合っています。

移動図書館今昔

ソフィアセンターの移動図書館の歴史は、昭和30年まで遡ります。当時は、巡回図書館として約500冊の本を車に積んで市内各所に貸し出して回りました。昭和45年には、自動車文庫「おおとり号」としてリニューアル！昭和57年まで活躍しました。

昭和45年
読書イベント走行中
「おおとり号」現在の移動図書館車
にじいろが目印！

移動図書館の仕事をしていると、子どもたちから元気をもらえて、充実した時間を過ごせます。子どもたちがルールを守って、気持ちよく本が借りられるよう心がけています。子どもたちから「ありがとうございます。」と言われるのが、やりがいの一つです。

(移動図書館業務に携わる、シルバーハウスセンター 蓮池さん)

内郷小学校では、移動図書館が来たら本を借りるという習慣ができ、巡回日には全校の子どもたちが競うように本を借りています。子どもたちは、学校の図書館にない本を借りようと移動図書館を楽しみにしているようです。

今回初めて移動図書館を利用した理人さん。絵本と紙芝居を借りました。借りたものは、おうちの方と一緒に楽しみたいそうです。

探し絵本で遊ぶことも好きだということです。

斎木理人さん（1年）

「ようかいむらのわくわくなつやすみ」
たかしよしかず／作・絵 国土社 (E9 タカ)

今回の移動図書館で、10冊もの本を借りた輝馬さん。学校にない本があるかと毎回楽しみにしています。

今日借りたのは、人気ゲーム「桃太郎電鉄」のキャラクターと一緒に地理や歴史が学べる本です。家に「桃太郎電鉄」のボードゲームがあって、面白そうだったので借りてみたとのこと。おうちの方とも、借りた本についての話をしています。

小玉輝馬さん（3年）

「『桃太郎電鉄』で学ぶ47都道府県地理・歴史攻略」
学研プラス (291 モ)

内郷小学校では、移動図書館が来たら本を借りるという習慣ができ、巡回日には全校の子どもたちが競うように本を借りています。子どもたちは、学校の図書館にない本を借りようと移動図書館を楽しみにしているようです。

広い玄関ホールに置かれた本箱の中身がどんどん減っていく様子を見ると、子どもたちが本に親しんでいることが感じられ、とても嬉しく思います。

高橋晴美校長先生



新さんは、生きものや科学など、理科に関する本に興味があります。今日借りた本も、「地球」や「人体図鑑」など、生命の不思議を感じさせるような内容です。お気に入りは「科学漫画サバイバル」シリーズ。

借りた本は、一人でじっくり読んだり、弟と一緒に楽しんだりしています。

こばやし あらた
小林新さん（2年）「ほねほねザウルス」14・15 大けっせん！ガルーダVSヒドラ 前編・後編
カバヤ食品株式会社／原案・監修、グループアンモナイト／作・絵 岩崎書店
(913 ホネ 14)

旬さんは、1ヶ月に約20冊もの本を借りて読んでいる読書家。今日借りた「かいけつゾロリ」シリーズやドラえもんの漫画を楽しみながら、理科や社会の学習ができる「ドラえもんワールド」シリーズがお気に入りです。

朝読書の時間を上手く活用して、集中して本を読んでいます。

佐藤旬さん（4年）

「かいけつゾロリのだ・だ・だ・だいぼうけん」
原ゆたか／さく・え ポプラ社
(913 ハラ 2)

大好きなヨシタケシンスケさんのイラストが挿絵になっている「世界ショートセレクション」シリーズに夢中になっているという衣都さん。今日借りた本はイギリスの推理小説家チェスターの短編集。挿絵が好きな作家によるものだと、手にとってしまうそうです。

お菓子作りが好きで、レシピ本もよく借りています。

やまだ いと
山田衣都さん（6年）「ブラウン神父呪いの書」
ギルバート・キース・チェスター／作、金原瑞人／訳、ヨシタケシンスケ／絵 理論社
(908 セカ 15)



郷土のことを調べる



鯨波水族館

柏崎の夏の風物詩としてあげられる水族館。水族館というと、巨大な水槽がいくつも置かれ、様々な地域から集められた多様な海の生きものが展示されています。しかし、「館」を思い浮かべますが、柏崎の水族館は海の岩場を仕切りとした生け簀に地場の魚を入れた天然の観光スポットとして親しまれた場所でした。現在は、親子が磯の海に入り、生きもの観察を体験する場として「番神自然水族館」のみ受け継がれていますが、かつては鯨波や八坂町にも水族館があり、老若男女問わず海の生きものを見て楽しんでいたそうです。天然水族館の生きものは、どれも地元の漁師が近隣の海で捕まえてきたタイやヒラメ、カレイ、スズキなどといった魚でしたが、大波に遭うと仕切りの外へ逃げてしまったため、都度入れ替えをして管理していました。

柏崎の水族館の先駆けとなったのは、昭和6年に開園した鯨波水族館。浪花屋旅館が海中に突出する弁天岩一帯を中心に開設しました。当時は浪花屋旅館の裏口から弁天岩方面に通ずる信越線の線路の向こう側に、「遊園地」と呼ばれる簡素な遊具やあずまやを設けた休憩所があり、避暑地として賑わっていたそうです。鯨波水族館に続き、昭和7年には番神水族館が開館されましたが、戦時中に両館とも一時閉鎖され、営業が再開されたのは戦後数年経ってからでした。昭和29年には八坂神社の境内に柏崎水族館が開館し、淡水魚や熱帯魚、パノラマ標本などが展示された陸上水族館として市民に親しまれました。鯨波、八坂の両水族館は、昭和40年代半ばに閉館し、そのままになってしまったことが惜しまれています。



八坂神社境内の柏崎水族館



●参考資料
『柏崎海辺の物語』前川政三郎編（214.1 ササ）
『柏崎水族館』柏崎観光協会編（480 Kカン）
『柏崎歳時記』山田良平著（910 ヤマ）
柏崎日報 昭和6年5月13日号、5月31日号、6月2日号 昭和29年5月1日号、6月30日号、7月2日号



わたしの 1 冊

ソフィアセンター
主任 村松 寛

「キャンプでしたい100のこと」
フィグウィンク／編 西東社 2021年発行
(786.3 キ)

太陽が眩しい季節となりました。見上げれば青い空に白い雲、海では波が太陽の光を浴びてキラキラと光り、森林では木漏れ日がやさしく癒してくれます。さあ、最高のアウトドアシーズン到来！キャンプに出掛けましょう。豪快にかたまり肉を焼いて食べるもよし、焚き火やランタンの炎に癒されるもよし、大自然の中でコーヒーを入れて飲むのもよしと楽しみ方は人それぞれです。

キャンプをしてみたいと思っているビギナーから最近マンネリ化している方まで是非読んでみてほしい1冊です。

図書館 Mini コラム

司書ってなあに？

図書館法で定められた、本についての仕事をする専門職の人を司書と呼びます。司書は字面通り「書物を司る（=役目としてその仕事をする。管理する）」職業で、本の選定や分類・整理、貸出・返却の手続き、イベントの企画運営、調べものの補助、文献紹介などを行っています。

ソフィアセンターには、現在13名の司書がいます。館内や市内の小学校で活躍中！

